

世界エネルギー会議 COVID-19に関する 緊急アンケート結果の概要

本報告は、新型コロナウイルス感染症に関し、WEC(世界エネルギー会議)本部がメンバー各国の回答者に対して行った緊急アンケート結果を邦訳し、まとめたものである。

回答者数	220人以上
回答国・地域	53
公表日	2020年5月7日

1. 新型コロナウイルス感染症の影響と対応

(1) 危機の中の生活

回答結果

- ・職場がコロナの影響を受けている 96%
- ・一時的に閉鎖せざるを得ない職場がある 25%
- ・エネルギー需要が減少している 45%
- ・働く者の福利厚生を最優先としたい 64%

影響項目のトップ3

「**需要の減少**」「**生産の削減**」「**資金問題**」

最大の懸念事項

「**事業運営の安全・安定**」「**顧客の支払い不能**」

(2) 将来への展望

回答結果

- ・職場（自組織）は速やかに回復すると思う 80%
- ・「コロナ後」の職場は“**新常態**”となる 10%
 - その中で⇒
 - 新常態はエネルギーシステムに来る 15%
 - 新常態は社会全体に対して来る 30%
- ・仕事が「**デジタル化**」で大きく変わる 68%

レジリエンスについて

長期的にみて組織やエネルギーシステムの**レジリエンス強化に拍車をかけるもの**と予想している。

(3) 危機から学ぶこと

COVID-19の大流行がいつ終息するかは分からないが、この危機から得られた今後の知見は、以下の6項目となった。

- ① 定まった計画でなく、やるべき使命にこだわれ。
- ② 今、行動せよ。但し、明日のことを考えることを止めるな。
- ③ デジタル化に投資せよ。
- ④ 人々の健康を優先させよ。
- ⑤ 日常のコミュニケーションと信用を保て。
- ⑥ 単独で物事を行わず共同で行え。

2. 将来の見通し

(1) エネルギーの“新常态(New Normal)”が到来

回答結果

- ・社会の「強靱性」がどうなるか不確実だ 45%
- ・コロナ後は、世界経済への影響が不確実だ 75%

今後1年間は影響を受けると答えた項目…多い順

- ・社会(95%) ・経済(87%) ・エネルギーシステム(84%)

“新常态”について

- ・コロナ後の「社会」は新常态となる 33%
- ・コロナ後の「エネルギーシステム」は新常态となる 15%

(2) 社会への影響について

回答結果

- ・社会はより強靱化し、次なる危機に対応できる 95%
- ・社会は“新常态”に移行するだろう 33%
- ・個人の自由(例:ソーシャルディスタンス確保)は変化する 80%
- ・ナショナリズムが台頭する 85%

社会は著しく変化していくものと予想

- ・雇用や福祉に対する懸念の声が出されている。
- ・今後の「働き方」はどうか不安材料となっている。
- ・ナショナリズムが台頭し、国家間の信頼が危惧されている。

(3) 貿易・グローバルバリューチェーンへの影響

回答結果

- ・経済の急速な回復は期待できない 85%
- ・労働形態のデジタル化など再構築が起こる 60%
- ・国家間の信頼は低下する 80%
- ・一方、パンデミック等への国際協力は高まる 75%

国家間の交流鈍化や信頼に対する懸念

- ・従来の貿易パターンは恒久的に縮小されると予想。
- ・供給網の再構築、国際調達への依存度低下。
- ・国家間の信頼は弱まるが国際協力は高まるという矛盾。
- ・石油とガスをめぐる地政学が、今後極めて重要となる。

(4) エネルギーシステムの動向

回答結果

- ・エネルギーシステムは6か月以内に回復する 60%
- ・エネルギーシステムも“新常态”に対応すべき 15%
- ・長期のエネルギー貯蔵システムが重要 75%

電力供給とレジリエンス

- ・今のところ電力供給に大きな支障は無い。
- ・しかし、エネルギー需要の低減が多大な影響をもたらすと予想。
- ・レジリエンスは、今後、エネルギーシステム全体に拡大して求められていくだろう。

(5) 環境とエネルギー転換

回答結果

- ・環境への影響は既に現れている 67%
- ・エネルギー転換への圧力が高まる 25%
- ・異事業部門(例:ファイナンス)との連携が重要 60%

エネルギー転換に対する予想

- ・経済活動は停滞するため、**当面は**、環境にはプラスだろう。
- ・しかし、各国政府が**気候変動目標を下げることの影響**を危惧。
- ・コロナ危機により、気候変動への**新たなアイデア**が求められる。